



小笠原村立小笠原中学校 学校だより

令和元年9月4日 第5号
小笠原村立小笠原中学校
校長 小野満 賢

学校ホームページ

<http://www.ogachu.que.ne.jp/>



学校フェイスブック

<https://www.facebook.com/ogasawara.jhs>



海はつながっている

校長 小野満 賢

8月9日、台風10号の影響でおがさわら丸が欠航し、繁忙期の観光客や帰省客の足に大きな打撃を与えました。内地からの物資もストップし、また、計画されていた島内の様々なイベントも延期や中止を余儀なくされました。台風が日本海側に抜けた後も、小笠原付近の強い風や海のうねりがなかなか収まらず、改めて人間の力ではどうすることもできない大自然の圧倒的な力を見せつけられた気がします。

しかし、たとえどんな表情を見せようとも、私たちにとって海は無くてはならない大切なものです。今回は海の話の一つしたいと思います。

7月29日、西表島で直径10cmほどの漁業用のロープに絡まったジンベエザメが発見され、ダイバーたちがのこぎりでロープを切って救出したというニュースが話題になりました。このように、故意であるか否かは別として人間が投棄したゴミに絡まる海洋動物のショッキングな映像が最近多く見られるようになりました。

一方、7月7日に行われた遠泳大会の最後の挨拶で、私は生徒たちにこんな話をしました。

「こんなにきれいで魅力的な海で泳げる幸せをかみしめるとともに、この海を次の時代、つまり君たちの子どもや孫にも、きれいなまま引き継いでいくためにどうしたらいいか、この遠泳大会ではそういうことも考える機会にして欲しい。」

少し前の話になりますが、一学期に東京海洋大学の黒田真央氏をお招きし、マイクロプラスチックの講義を受けました。マイクロプラスチックは5mm以下のプラスチックのことで、我々が普段使っているプラスチック製品が波や紫外線によって破碎され、小片化・微細化して海に漂っているものです。黒田氏によると、これが小さい魚に取り込まれ、それを食べた大きい魚に取り込まれ、それを食べる人間にも影響が出てくるといいます。また、洗顔料や歯磨き粉に研磨剤として含まれる「マイクロビーズ」はプラスチックそのもので、洗面所から排水された後は、下水処理のフィルターを通過してそのまま川や海に流れてしまっていることを聞き、驚きました。アメリカでは既に2017年オバマ政権下で使用禁止になっています。ポイ捨てされたペットボトルやレジ袋などの他、漁網やブイなども漂流ゴミになって、前述のジンベエザメのように海洋動物に深刻な被害を与えています。

廃棄されるプラスチックに関しては多くの国々で問題視され、厳しく規制されています。EUでも2021年から使い捨てのプラスチックの使用を禁止する法案が可決され、企業の方も、原料を製品化し使用して廃棄するという一方通行の経済活動から、循環型経済活動へシフトするための努力を急ピッチで進めているところです。さて、日本ではどうでしょうか。残念ながら日本では企業側に自主規制を求めている段階で、国としてのプラスチックに対する取組が非常に遅れていると言わざるを得ません。

NHKの「脱プラスチックへの挑戦 持続可能な地球をめざして」という番組の中で、オランダのボイヤンスラット氏という24歳の青年の活動を紹介していました。彼は18歳の時に、今まで誰もやろうとしなかった「海洋プラスチックの回収の必要性」を世界に向けて発信し、クラウドファンディングで資金を集め、「The Ocean Cleanup」という非営利団体を立ち上げました。彼が16歳の時、ギリシアヘダイビングに行った際、魚よりもプラスチックゴミの方が多くて愕然としたことがこの活動の始まりだといえます。海洋プラスチックのうち、92%以上が5mm以上のものだそうで、これは放っておくといずれマイクロプラスチックになるとともに、劣化の過程でメタンなどの温室効果ガスが発生し地球温暖化につながっていくという研究結果も報告されています。彼は団体のCEOとして、比較的大きな海洋ゴミを、海流を使って回収除去するシステムを5年がかりで作っているのだそうです。

WWF（世界自然保護基金）によると、既に世界の海に存在しているといわれるプラスチックごみは、合計で1億5000万トン。そこへ少なくとも年間800万トン（重さにして、ジャンボジェット機5万機相当）が、新たに流入していると推定されています。一旦広い範囲へ流出してしまった海洋ゴミを回収するためには莫大な経費と時間と手間がかかります。海はつながっています。小笠原の海も、プラスチックだらけの“ゴミベルト”と呼ばれる海も、境界があるわけではありません。そう考えると私たちも今すぐに何か具体的に動く必要があります。

先日の講義の締めくくりに黒田氏はこのように言っていました。「蛇口を閉めないことにはゴミは増え続けます。」つまり、我々の日々の生活の中でプラスチックを排出しないことが何よりも大事です。ポイ捨てをしないのは最低限のマナーですが、プラスチックのストローは使わない、買い物にはエコバッグを必ず持参しレジ袋はもらわない、マイクロビーズ入りの洗顔料は使わない、マイボトルやマイ箸を持ち歩き、プラスチックのコップやスプーン・フォークは使わない、詰め替え用のボトルなど繰り返し使えるものを使う等々、自分たちでできることはまだまだありそうです。

来年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、7月17日には初めて小笠原にも聖火がやってきます。世界自然遺産の小笠原に住む若い世代の皆さんは、手を携え、この素晴らしい海を守るための協力依頼を、世界に発信していくことが必要なのではないのでしょうか。

ロープから解放されたジンベエザメの悠々と泳ぐ姿を見て、その思いをいっそう強くしました。

遠泳大会

保健体育科担当

7月7日（土）、今年度は七夕の日に遠泳大会が開催されました。

“1時間かけて1kmをみんなで泳ぐ”ことを目標として海練習から準備を行ってきました。今年度は風が強く、波も少し高波となっていて、泳ぐ生徒達にとっては厳しいコンディションの中でのスタートになりました。本番のバディを発表し、伴泳協力者の方々を紹介した後、スタートの青灯に向かいました。今一度心構えの確認をしてスタートを待ちました。少し海の状況が心配されていましたが、予定通りの時刻でスタート。生徒は次々と海中へ飛び込んでいきます。今年度も先輩と後輩でバディを組むことでバランスを取り合い励まし合いながらゴールを目指しました。しかし、最初のピンクのブイを目指して方向転換した辺りから、波の影響もあって遅れる生徒が続出。隊列が所々離れてしまいました。それでも近くの人と励まし合いながら、泳ぐことを諦める生徒は1人もいませんでした。ひとりの脱落者もなく全員完泳！“1時間かけて1kmを泳ぐ”という目標も達成。澄み切った青い空、透き通った海。素晴らしい遠泳大会となりました。

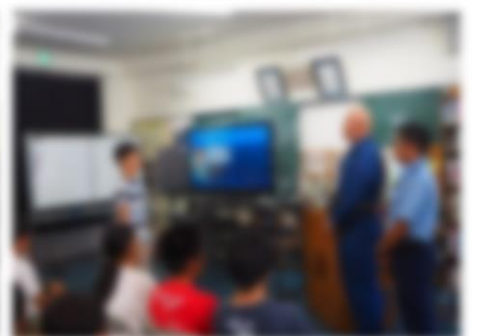
今回の遠泳大会でも、全員が無事に最後まで泳ぎ切れたのはお忙しい中ご参加・ご協力くださいました多くの方々のおかげです。保護者・地域の方々、海上自衛隊父島基地分遣隊、小笠原警察署、海上保安庁小笠原海上保安署、小笠原村診療所の方々など、たくさんのご協力にこの場を借りて改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



セーフティ教室

安全指導担当

7月15日（月）、小笠原警察署の方に講師として来て頂き、薬物乱用の危険性、SNSの正しい使用方法などについてのお話を聞きました。どの生徒も真剣に聞いており、よく勉強していました。



父母学習交流会

教務部担当

7月10日(水)11日(木)の2日間にわたって父母学習交流会が行われました。

授業では1年生は道徳、2・3年生は総合的な学習の時間を一緒に行いました。また学年の枠を越えて美術と音楽での交流をすることもできました。放課後は部活動にも加わって親睦を深めることができました。美術と音楽の取組を紹介します。

美術科担当

今年の父母学習交流会は「小笠原の顔はめパネルをつくろう」をテーマに観光地によくある顔はめパネル制作に取り組みました。

父島母島混合で学年を縦割りにし、1グループ3～4人で、90cm×165cmのスチレンボードに、デザイン案を出し合い、3時間で制作しました。各グループともに母島の生徒と協力し合い、限られた時間の中で、一生懸命取り組んでいました。

作品のモチーフは、小笠原の固有種や、自然、文化など、バラエティに富んだものが見られました。どの作品も色彩豊かで、見る人を楽しませてくれます。

小笠原の生徒たちの美的能力の高さとエネルギーを感じた父母学習交流会でした。ぜひ、機会を作って地域のみなさまにご覧いただきたいと思います。

音楽科担当

午後の2時間は両校の生徒68名全員が楽器を持ち、吹奏楽を行いました。今年度はまず各パートに分かれて30分程度練習を行い、一緒に「ジブリソングス」の練習をしたり、日頃の楽器練習について情報共有をしたりしました。その後、金管楽器と木管楽器に分かれて合奏しました。

今回の活動を通して、3年生はパートリーダーやセクションリーダー、コンサートマスター等で積極的に活動することができました。2年生も昨年度の経験を生かして、1年生に丁寧に教えようとする姿が見受けられました。1年生は楽器を始めて間もない時期でしたが、一生懸命先輩についていこうと頑張っていました。感想には「楽しかった」「一緒に演奏できて良かった」「パートの人数が増えて、できるようになったところが増えた」など、交流練習の良さがたくさん書かれていました。



南アルプス市親善交流

引率担当

7月26日(金)から29日(月)、3泊4日で南アルプス市親善交流会がありました。小笠原中生が13名、母島中生が7名参加しました。台風の影響で南アルプス登山は中止になりましたが、桃狩りをしたり伊奈ヶ湖で虫の家を作ったり、パイプオルガンを見学したり、充実した4日間でした。小笠原の生徒は積極的に南

アルプスの生徒たちと関わり、親睦を深め、貴重な時間を過ごしました。また来年、小笠原に来てくれた時に、会おうと約束し、別れを惜しましました。



部活動 遠征報告・活動紹介

サッカー部

サッカー部顧問

「感謝～みんなの想いを力に変えて～」

今年度、小笠原中学校サッカー部は島嶼大会優勝という素晴らしい結果を残すことができました。今回の結果に至るまでには、関わってくださったたくさんの方の「想い」があり、選手一人一人に語り尽くせないドラマがありました。それら全てをひとつの力に変え、最高のパフォーマンスを発揮して優勝を勝ち取ることができたのです。どの試合も本当に感動的で、胸が熱くなるゲームでした。おがさわら丸の船内放送で流して欲しいくらいです。

今回の遠征中、また遠征に至るまでに関わった全ての方々に改めて感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。今後も小笠原中学校サッカー部をよろしくお願いいたします。



野球部

野球部顧問

7月20日（土）の開会式とともに、小笠原中学校野球部として初めての都大会が始まりました。今年は野球部の生徒が9人そろい、念願の公式戦参加となりました。

21日（日）の初戦では八丈合同チームとの対戦でした。3対7と敗れたものの、それぞれが攻守にわたり活躍し、応援に来ていただいた皆さんも盛り上がる試合となりました。特にヒットが出ればコールド負けの場面では、ピッチャー、キャッチャー、サードの3年生が活躍してピンチを切り抜けた場面は素晴らしかったです。

また、20日（土）には新宿中学校との合同練習、22日（月）には鹿本中学校との練習試合と、試合経験も積み、来年度以降にも繋がる6日間の遠征となりました。

当日を含め、大会に向けて応援していただいた保護者、地域の皆様、応援・ご協力ありがとうございました。



バレーボール部

バレーボール部顧問

「一心をひとつにボールをつなげー 全力排球」

今年度も、バレーボール部は、島嶼大会に向けて練習に励んできました。チームの目標は「全力排球」です。どんな時も、全力で自分たちのバレーボールをしようという意味が込められています。

大会前は、毎年交流をしている、品川区立品川学園のバレーボール部の体育館をお借りし、練習や練習試合を行い、この7名でできるバレーボールを一人一人と考え、当日を迎えました。結果は、対三宅中学校（2-0）、対新島中学校（0-2）、対八丈合同チーム（0-2）となり、3位でした。この島嶼大会遠征を通して、日々の練習の大切さだけでなく、仲間との心のつながりを実感することができたと思います。

日々の練習や、島内の大会でご協力していただいた地域のみなさん、高校生のみなさん、強化練習でお世話になった三枝監督、横野さん、そして、最後まで大きな声援を送り続けた保護者のみなさん、応援ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。



バドミントン部

バドミントン部顧問



7月24日（水）に葛飾区水元総合スポーツセンターで都大会個人戦が行われ、男子シングルス、女子シングルスに出場しました。各ブロックの代表が集まっているので、生徒たちは、島嶼大会とはまた違う空気を肌で感じていたと思います。

6月に、2012年ロンドンオリンピックバドミントン女子ダブルス銀メダリストの藤井瑞希選手に指導して頂きましたが、それが生徒たちにとって都大会に向けての大きな力になっていたように見受けられました。出場した2名は緊張した面持ちでしたが、よく動き、強い選手相手に自分の力を出そうと奮闘していました。

島嶼大会から引き続き、今回の遠征にご協力、応援頂きました保護者、地域の皆様、藤井瑞希選手、本当にありがとうございました。引き続き今後ともよろしくお願い致します。

硬式テニス部

硬式テニス部顧問

硬式テニス部は、8月20日（火）21日（水）の東京都中体連第一ブロック新人大会に出場するため、8月18日（日）～24日（土）に夏季遠征を行いました。大会は、男女それぞれシングルス3組、ダブルス1組出場しました。女子ダブルスは、一回戦を勝ち上がり、二回戦に進むこともできました。公式試合での初勝利でした。大会の他に、他校との合同練習も行うことができました。

島内では、他校の中学生と試合をするという経験ができません。大会に出場できたこともそうですが、この遠征を通じて、内地で自分達と同じようにテニスをやっている仲間・ライバルがいることを肌で感じ、これからどのような部活を創り上げていきたいか、考える良い機会となりました。

大会参加費や交通費を負担していただいた小笠原村教育委員会、保護者の皆様、島内のテニス関係者の皆様、遠征先でお世話になった皆様、本当にありがとうございました。



美術部

美術部顧問

4月から小笠原海運（50周年特別企画）の依頼で制作していたコンテナアートが完成しました。

美術部4人で、1人1面を担当しました。小笠原の自然、動植物をテーマに描いています。少ない時間を積み重ね、納得のいくまで、蚊に刺されながら、天候に振り回されながら、一生懸命描きました。ぜひ、多くの方々にご覧いただけたらと思います。

小笠原海運様には、地域のみなさまの大切な荷物を運ぶコンテナに、描く機会を与えていただけたこと、誠に感謝いたします。



音楽部

音楽部顧問

今年度は3名の部員で、吹奏楽の楽器を使って楽曲練習をしています。12月の学習発表会（音楽）に向けた楽器の練習や、リーダー（セクション・パート）としての楽曲のまとめ方についても学んでいます。秋にはSwing Blowの皆さんとのセッションや、3月には3年生を送る会での演奏も予定しています。7月は、母島中音楽部の生徒や先生方と一緒に演奏して交流を深めました。



科学部

科学部顧問

科学部では畑で野菜作りをしています。土を作ることから始め、畝をつくって種まきをして水やりをして育てています。バジルとカボチャが元気に成長しています。収穫が楽しみです。

体罰防止宣言

体罰は、子どもの人権を侵害する行為であって、絶対にあってはならない行為です。

これまでも体罰の防止に取り組んで参りましたが、東京都教育委員会では7月1日から8月31日を「体罰防止月間」としており、本校でも全教職員を対象に改めて服務事故防止研修を実施いたしました。

今後も体罰防止に努めるとともに、子ども一人一人の人権を大切にした教育を進めていきます。全教職員が一丸となって「体罰によらない、対話による教育」を推進して参ります。



9月の主な予定

2日（月）始業式 発育測定 避難訓練
 3日（火）安全指導
 4日（水）食育講話 芝生の日
 7日（土）総合発表会（1・3年）
 9日（月）振替休業日
 10日（火）生徒会朝礼 三者面談（3年）（始）
 保健面談（始）
 11日（水）お弁当の日
 東平外来種駆除活動事前学習（1年）
 12日（木）東平外来種駆除活動（1年）
 16日（月）敬老の日

17日（火）学校朝礼
 18日（水）芝生の日
 20日（金）三者面談（3年）（終）
 東平外来種駆除活動（1年）予備日
 21日（土）PTAブイ・フロート清掃
 23日（月）秋分の日
 24日（火）学校朝礼 連合運動会合同練習
 25日（水）生徒会役員選挙
 27日（金）島しょ研修会
 28日（土）島しょ研修会（授業日）
 30日（月）学校朝礼 連合運動会予行